ゴルフエッセー「耳と耳のあいだ」(第24回)

上達の近道は、本質を見失わないこと

2017.07.14



近ごろの政治や経済のニュースを見ていると、国内も海外もなんだかなぁとため息ばかり出ませんか。例えば議論の場であるはずの国会が議論を放棄してしまっては、存在理由が不明確になってしまいます。問題が発生した際にそもそも原点は何か、本筋は何かと常に意識しないと、道を見失うことが往々にあります。ゴルフも例外ではありません。

ゴルフは、本質を忘れてしまってプレーに臨むと途端にスコアを崩してしまいます。コースに出ていて、そうしたゴルファーを多く見かけます。本質さえ見失わなければ、ゴルフはもっと易しくなりますし、もっと良いスコアで回れるはずなのです。今回は、ゴルフの本質について考えてみたいと思います。

ゴルフの本質とは？

ゴルフとは、所定のコースにおいてクラブを使ってボールを打ち、いかに少ない打数でカップに入れるかを競う競技です。「少ない打数でカップに入れる」「目的の場所にボールを運ぶ」……この2つ、つまり結果とプロセスこそがゴルフの本質です。

ドラコン(ドライビングコンテスト)のように飛距離を競う大会もありますが、ゴルフ競技は、そもそもナイスショットや飛距離を競うものではありませんし、スイングのキレイさを競うものでもありません。この本質を忘れ、ショットの良しあしや飛距離ばかりを求めてプレーしている人が、とても多いのではないでしょうか？以下の実例に心当たりはありませんか？

●ナイスショットが打てないと嘆く人
ボールはフェアウェイの良い所に運べているにもかかわらず、「今のはチョット当たりが悪いなぁ」「少し芝をかんだなぁ」と、100点満点のショットでなければ気が済まない。

――満足できなかったとしても、良い位置に付けたことを喜ぶべきです。理想のショットを打てるほうがまれなのですから。

●結果オーライを悔しがったり、恥ずかしがったりする人
ボールの上をたたく(トップ)などのミスショットをしたにもかかわらず、ボールが転がって運よくグリーンにオンできたとき、「もっとちゃんと打てていれば」などと言い訳をする。

――少ない打数でカップに入れるため、目標とする場所にボールを運ぶというゴルフの目的からすれば、結果オーライは文字通り、オールライト(良い／問題ない)なのです。悔しがったり恥ずかしがったりする必要はないでしょう。

●ナイスショットが打てたことだけに満足する人… 続きを読む